

## 授業改善リーフ「第3集」

P・I・Aとは、  
Proactive (主体的な)、Interactive (対話的な)、Authentic (本物の)  
Learning (学び) [文部科学省パンフレットより 2021.3 発行] の頭文字  
をとったもので、「主体的・対話的で深い学び」を英語で表現したもの。

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
小学校 社会 編 ① 概要

校種・学年	小学校・6学年	教科等	社会
単元名	世界に歩み出した日本		
単元の目標	我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。		
本時のねらい	世の中の様子、政府の政策に着目して、問いを見出すことができるようにする。		
本時の評価規準	世の中の様子、政府の政策に着目して、問いを見出している。 【思考・判断・表現】		

### 事例の概要(見どころ)

- ・学ばせたいことに沿うような資料を精選し、その資料の提示の仕方を工夫するとともに、子供一人一人の「問い」を引き出すことで、子供たちの疑問や思いから学習問題を立てられるようにし、主体的に学べるようにしています。
- ・自らの考えを広げ、深めるために、ICTを活用しながら個人の考えを共有し、なぜその考えになったのか、意見の内容に注目しながら自分で交流したい相手を決めて交流しています。また、授業者が子供たちの疑問や意見をつなげるファシリテーターの役割を担い、話し合いから出た様々な子供たちの意見を多角的に考えられるようにしています。
- ・個々の事象を関連づけることを通し、前単元や既習事項とのつながりを想起させるとともに、授業者の意図的な発問や資料提示をすることで児童が社会的な見方・考え方を働かせています。

発行：令和7年3月  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



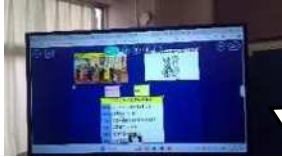



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 小学校 社会 編 ② 指導展開

- 目標 世の中の様子、政府の政策に着目して、問いを見出すことができるようにする。
- 準備 PC、大型モニタ、ICT 端末
- 展 開 (1/7)

学習活動・学習内容	・指導上の留意点	評価<方法>	資料等	時間
1 これまでの学習を振り返る。 ・明治維新に関わった出来事 ・国内での大きな変化	・前単元の掲示物を見て、どんな視点で調べ学習を行ってきたか振り返る。 	事象を個別の事実として捉えるのではなく、事象を関連付けて考えていけるように前単元とのつながりを示しています。	・明治維新や文化の発展に関わった人物の写真 (木戸孝允、大久保利通、福沢諭吉、板垣退助、伊藤博文)	2
【授業改善の視点】				
主体的な学びを促すためには、子供たち自らが、本単元・本時で何を学ぶかを明確に意識することが大切です。そのためには、形式的な前時までの振り返りではなく、「今までの学びや生活経験」「前時までの学びの状況」を子供たちと丁寧に対話することが大切です。				
2 風刺画から当時の外国との関係をとらえ、課題をつかむ。 ・ノルマントン号事件 ・不平等条約	子供が社会的事象と出会う際、驚きや疑問を感じるように資料や資料の一部を隠して提示する等、提示方法を工夫しています。		・ノルマントン号事件の風刺画	6
【授業改善の視点】				
具体的な事実をもとに疑問をもたせ、問いや課題につながるような資料を提示することが主体的な学びの実現につながります。また、資料がどんな特徴をもつものか、どのタイミングで示すのが効果的かを考えることが大切です。				
【課題】 不平等条約に対して日本はどのようなことをしたのだろうか。				
3 資料から条約改正に向けての取組について調べ、話し合う。 ・領事裁判権 ・関税自主権 ・鹿鳴館 ・条約改正	・明治維新により、日本の変化はあったものの国際的地位が低かったことをおさえる。 ・当時の人々の立場に立って、条約をすぐにも改正したいという気持ちをおさえる。  		・関税自主権の仕組みの図 ・「猿まね」の絵 ・条約改正に向けての日本の取組の年表	17
話し合いの目的を示すことで、話し合いに必要性を感じさせるとともに、子供それぞれの意見の内容に注目して考えを共有できるよう、自分で交流したい相手を決め、交流しています。 	・学習支援ソフト（ロイロノート）に貼られた資料に、気付きや疑問を入力させる。カードを共有し、考えを広げることを交流の目的として示す。考えをより聞いてみたい相手や自分とは異なる考えの子供を中心に交流させる。 ・どのようなことを書いたら良いか悩む子供		はじめに個人で考えを入力し、次に交流を行います。ICT 端末を活用することで、思考の可視化や即座に共有、加除訂正が可能となり、学習活動の質を高めています。	
【授業改善の視点】				
対話的な学びは子供がその必要性を感じていることが大切です。自分で交流したい相手を決めることは、考えを広げるだけでなく子供が対話的に学習する活動の必要性を感じることに繋がります。				

には、疑問の型を示したり学習支援ソフト（ロイロノート）の共有の際、納得できる考えを見付けたりするよう声掛けをする。

評世の中の様子、政府の政策に着目して、問いを見出している。【思考・判断・表現】

＜評価方法＞

学習支援ソフト（ロイロノート）

＜「努力を要する」状況(C)への手だて＞

- ・学習問題につながる問いを考えることが難しい子供には、疑問の型を示したり、共有された学習支援ソフト（ロイロノート）から気になる疑問点を見付けさせたりすることで、問いを見出させる。



【授業改善の視点】

- ・教師が設定した本時の評価規準は、本時の評価場面で確実に見取り、蓄積し、子供たち一人一人に対して適切に支援し、変容させていくことが大切です。
- ・単元の前半では、「評価したことを指導に生かす」場面の要素が強く、単元の後半では、「評価したことを記録に残す」場面の要素が強くなります。

4 学習問題を立てる。

【授業改善の視点】

学習問題設定場面では、学習問題に興味・関心をもつよう、子供の気付きや疑問、予想などを基に教師が問い返したり、関連付けたりすることが大切です。

- ・交流の中で生まれた疑問や、取組によってどのように変化していたのかを予想している子供を全体で取り上げる。
- ・キーワードを板書し、それを基に学習問題を子供に考えさせていく。

子供の疑問や予想をつなげる役割を教師が担い、子供の発言内容の差異やつながりを的確に聞き分け、思考を焦点化する問い返しを行うことで、学習問題を考えさせています。



10

学習問題

条約改正をするために、日本は外国や国内でどのような取組をし、それによりどんな変化があったのだろうか。

5 学習問題に対する予想を立てる。

思考ツール（Xチャート）を活用することで、社会的事象を4つの視点から多角的にとらえることができます。また、視点を相互に関連付けることで深い学びにつなげています。

- ・予想の視点については前単元の学習内容を生かす。そのために、掲示物を活用する。
- ・思考ツール（Xチャート）に入力された視点ごとに予想を書かせる。（外国、国内の仕組み、産業、文化）
- ・途中で学習支援ソフト（ロイロノート）を共有し、考えを広げられるようにする。（異なる視点のカードをつなげている子供がいた際には全体で共有する。）
- ・本時では個人の考えをまとめる時間とし、次時では話し合いの時間を設けて予想を基に学習計画を立てていく。

【授業改善の視点】

学習問題について予想し、みんなで調べる事柄を導き出して決めることは、その後の学習の見通しをもつことになり、「主体的な学び」に大きく関わります。

10

